

長崎北病院 伝言板 2月号

令和6年2月1日発行

早くも2月。能登半島地震など大きな出来事が続いて、ざわざわしているうちにもう「逃げ月2月」。落ち着かない時期ですが季節は着実に歩みを進める。白い花がポツポツ。梅が咲き始めています。菜の花、蠟梅（ろうばい）、福寿草、木瓜（ぼけ）、ローズマリー。踏の薑（ふきのとう）も出ます。もう春遠からじではなく春隣（はるとなり）、花のたより、陽春の季節です。光の春到来です。

J R A T



能登半島地震。中学か高校かの授業で「元は海だったが何万年か前に盛り上がり陸になった」と聞いても遠い昔の話と聞いていました。しかし、1ヶ月前、能登ではまさに海が盛り上がり陸になりました。恐るべし自然。現地では甚大な被害がどんどん明らかになっています。電線は空中（電柱）を通りますので電気は復旧したようですが、地面の下はズタズタのはず。水道、下水の復旧は簡単ではないでしょう。地震発生直後から災害派遣医療チーム（DMAT）が現地に入り活動していました。災害の初期には直接的な外傷などが問題です。しかし、少し時間が経つと生活の問題、不活発、運動不足、廃用などで健康が損なわれ、場合によっては亡くなります（災害関連死）。むしろこちらの方が増えてきます。これは防ぐことが必要であり可能です。その対応としてリハビリテーションが有効です。災害リハビリテーション支援チーム（JRAT）の出番です。当院からも2回に分けて2名ずつ計4名のリハスタッフが参加します。福岡空港から小松空港に飛んでそこから



レンタカーで現地入り。泊まる場所も確保されておらず、現地近くの施設などで泊まることになるかも知れないということです。「寝袋」持参です。この季節に北陸能登で寝袋で過ごす寝は大変。さらに慣れない道、破損した道路で交通事故も起こっています。まずは自身の安全、そして精一杯活動して無事に帰ってきてください。多くの方が支援したいと思っても、特に現地での活動は難しい。今回手を挙げていただいた体力、気力のある4人の方には後ろから応援しています。Good Luck! You can do it!



さてコロナ。5類になって隔離や休業の義務もなくなり世の中はコロナ前の状態に近づいてきました。マスクもなし。コロナは忘れられていました。その中でじわりと、気づかないうち蔓延していました。気がつくとき多くの病院や施設で大量発生（クラスターとは言わない）していました。コロナに対する注意、管理が甘くなり、検査もしなくなっていますので気づいた時には広範囲に広がっているようです。報告義務もありませんので行政や保健所も現状を把握もしておらず、注意喚起や対策もありません。放置、無策。蔓延するのは当たり前です。感染しても若い方は体力があり、なんとか乗り越えられます。問題は高齢者です。自宅や施設で発熱した、食事が食べられない、動けなくなったという入院要請が救急隊や開業医の先生から続いています。ほとんどがコロナです。頑張っただけで対応しています。コロナ感染への対応は数年の経験で上手になっています。問題はコロナが治った後。若者と違い、コロナが治っても体へのダメージは深刻。元の状況に戻らず自宅や施設に戻れなくなる人が多いのが現状。病床がコロナ後の患者さんで埋まってしまいます。新しい患者さんが入院しにくくなり本来業務に支障が出ています。どうしたものか悩ましい状況です。世の中にはとんでもなくコロナが蔓延しているということを自覚して頂いて、とにかく感染予防をもう一度思い出して徹底しましょう。(A.S.)

